

梅窓院通信

春彼岸号

No.63

2013/03/01

青山



当市においては、東日本大震災において
 甚大なる被害が発生しました。ここはその
 中心となる場所の一つです。
 写真撮影等に当たっては犠牲者や被災者
 へのご配慮をお願いいたします。

気仙沼市

東日本大震災の被災地、気仙沼の道路脇に乗り上げた大型船の祭壇に合掌する中島住職(2013年1月撮影)。脇には被災先への配慮を促す看板が(左下)。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



平成二十五年も、はや春のお彼岸を迎える頃になりました。皆さま、お変わりありませんでしょうか。

三月に入ると、一年前の三月十一日の東日本大震災に関する報道や記事がマスコミで取り上げられることになるでしょう。私もこのお正月明けに被災地を初めて訪れました。表紙と特集でその時の様子をご覧ください。

さて、早いもので梅窓院の新本堂の落慶から今年が十年目となり、大規模修繕を行ないます。秋の予定を少し早めて、四月一日から五月末日を予定しています。壁面の塗装もあり、ビルを覆う大きな修繕になります。皆さまにご迷惑をお掛けいたしますが、何卒、ご理解ご協力をいただけますよう、お願いいたします。

その新本堂や他の建物は耐震に気を配ったものでしたので、二年前の東日本大震災の影響を受けることはありませんでした。とはいえ、今後関東を大きな地震が襲う可能性もあります。建物は大丈夫でもライフラインへの影響は避けられません。従って、防災トイレや非常時の炊き出しなど、被災に対しての準備をできる範囲でしています。十夜法要後に芋煮を食べられた方はお気づきかもしれません。芋煮を作る鍋やコンロ、釜などはそうした非常用に準備したものを使っています。非常用のものを普段使うことで、いざという時に使える為、という事です。

話の順序が前後しますが、このお正月の修正会では、好天に恵まれ四百食のお雑煮とおせちが十二時半にはなくなりまして。

このように梅窓院の行事の中には食べ物を振る舞うものもあります。お参りして、美味しいものも食べられる行事でもありますので、どうぞこれからもご家族皆様さんでお寺に足をお運びください。お待ちしております。

最後になりましたが、傳通院、祐天寺、梅窓院の三か寺団体参拝がトルコに決まりました。詳細は追ってお知らせいたします。

春雨と彼岸晴れ

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

季節の変わり時は、時節時候の大事な節目・区切り目である。とくに春・夏・秋・冬の四季の移り変わりの美しい日本列島では、季節の微妙な推移のさまに目を見はり、耳を傾け、心を寄せてきたのである。その思いのたけの強さ、深さが、日本語の言葉の中によく反映して、季節を読み取り、季節を語り伝えるための大切な季節の言葉を作っている。

さて春のお彼岸の好季を迎える頃になると、決まって降るのが春の雨・春雨である。季節の変わり目の習いとはいえ、細かいしとしと雨が、風の風ぎに合わせて降るのである。春雨とは、もともと春小雨といった言葉の省略形ともいわれるが、ともかく煙るように降る小雨である。この春の雨は、時に春の長雨、春霖しゅんりんということになる。霖という言葉は、淋しんという字の意義と音を借用して、水が長く続くこと、すなわち長雨の意味である。

春の雨にちなんだ季語を続けて紹介すれば、春時雨はるしぐれは断続的に定めなく降る雨。春驟雨はるしゅううは春の夕立ちともいい、にわか雨のこと。菜種梅雨は、文字通り、菜の花の咲く頃の雨。そして、花の雨・花時の雨は、桜花咲き競う時節柄の雨ということになる。

行友李風作の戯曲「月形半平太」は、かつて劇団新国劇のおなじみの演目であった。「月様、雨が…」という舞妓の雛菊の台詞を受けて、主人公月形半平太が、「春雨じゃ。濡れて行こう」と述べた名台詞。当時は、とても人気のあつた名作の名舞台を作った言い回しである。

雨の潤い、雨の恵みということが、この台詞の奥に隠されているようである。樹木を育て、草花を育む雨のありがたさは、日本人の心には自然を慈しむやさしい雨と映つたのである。こうした日本文化の伝統が、一つ、このような古い芝居の台詞回しにもあつたわけである。

魚住王蟬の句である。初五は「どつきように」と読んだほうがよからう。よく晴れ渡つた日中の、しかもお中日の彼岸会の読経である。

お中日の日、つまり春分の日。昼の長さや夜の長さが同じ、昼夜同分の一日。春分・中日の季語欄に時正とある。時正とは、昼夜の長短が等しいことから、時の正しさと理解して名づけられた言葉である。

このお中日に、太陽は真東から昇り真西に沈む。その入り日、夕日の沈む彼方、西方十萬億仏土の彼方に阿弥陀如来の西方極樂浄土があるわけである。大きく丸い太陽の大宝珠・大円光の光り輝きを拝させていたいただくためにも、彼岸晴れであつてほしいのである。

最後に一言。その春の大きに虹がかかる春の虹・初虹は、二十四節気の次第でいう春分の次の清明せいめいの頃合いということになる。

一月の行事報告

修正会とお雑煮の振舞いが無事終了いたしました。元旦から沢山の方のお参りくださいました。



今年で4回目となる修正会法要。



修正会のあとおせちとお雑煮を楽しむ参拝者の皆さん。

春彼岸法要

三月二十日(水)

彼岸寄席

午後一時～地下二階 祖師堂

春彼岸法要

午後二時～地下二階 祖師堂



プロフィール 入船亭扇好 師匠

昭和38年長野県生まれ。昭和60年入船亭扇橋に入門。平成10年真打昇進。古典落語を中心に活動。永六輔氏主催の「永住亭」レギュラーメンバーでもある。趣味はスキー、日本舞踊、小唄から古道具集めまで幅広い。

入船亭ゆう京

京都大学卒業。
平成22年10月入船亭扇遊に入門。
平成23年5月14日上野鈴木演芸場初高座「寿限無」

塔婆申込み方法

同封のがきを使い三月十日(日)必着でお申込みください。

塔婆回向料は一本 七千円とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払いいただくか、当院受付までお持ちください。(銀行でのお振込みは出来ません。)

お檀家様へお願い

3月17日～23日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いいたします。

※観音堂エントランスにてお呈茶しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

春彼岸によせて

お彼岸は年二回、春分・秋分の日を中日にして一週間営まれます。お彼岸とは本来はさとりの世界という意味で、迷いや苦悩に満ちたこちら側の岸(此の岸)に対して、あちら側の岸(彼の岸)を指しています。お墓参りを思い浮かべる方が多いと思いますが、お彼岸の先祖供養の始まりは二説によると西方に沈む太陽を礼拝し、遙か彼方の西方極楽浄土におもいをさせていたことが由来となっています。お彼岸が春夏秋冬の四季にめぐまれた日本独特の仏教行事であることは、あまり知られていません。

さて、お彼岸のお供え物と言えば、おはぎ・ぼたもちです。皆さんこの二つの違いをご存知ですか？実は同じものです。牡丹の季節、春のお彼岸に供えるのがぼたもちで、萩の季節、秋のお彼岸に供えるのがおはぎです。わかりやすいですね。お墓参りご先祖供養などと共に、沈む太陽、西方にある極楽浄土をおもい、「南無阿弥陀仏」とお念仏をお称えしてみたいかがでしょう。

(法務部)

春彼岸物産展

3月19日・20日 観音堂

今年も郡上八幡の特産品が梅窓院にやってきます。この機会にぜひお求めください。



平成二十三年三月十一日の東日本大震災から間もなく二年の月日が過ぎ去ります。被災地では今年になってから震災物故者の三回忌の法要が始まっているそうです。

そんな年が改まった一月八日、梅窓院の中島住職と一緒に被災地を訪れました。被災地の今と復興の状況をお伝えします。

「本当にこうして来てくれるだけで嬉しいです。被災したことを忘れないでいて欲しい、というのが私たちの気持ちなのです」

震災当日、避難所となり、多くの被災者を迎え入れた浄念寺の 副住職は私たちの訪問に、こう喜んでくれた。

その副住職と父である 住職の案内で浄念寺から気仙沼港に向かう。左手に復興マルシエのプレハブが見えたかと思つた途端に急に視界が開けた。

ところどころに基礎を残すだけのまるで荒野のような景色が道路の左右に広がる。説明されなければ気仙沼一の住宅街だったことは全くわからない。そして道路脇にはテレビの震災報道で見覚えのある大型船が横たわっている。

「この船も、震災を忘れないように残そうという人たちと、残したくないという人たちがいて、まだどうするか決まっています」

地盤沈下で海面がすれすれになった港を過ぎて反対側の商店街、住宅街へ。こちらと同じ様な荒野が続くが地盤沈下が激しいせいか、あちこちが大きな水たまりになっ

東日本大震災の被災地 気仙沼と 陸前高田を 訪れる



高台にある浄土寺本堂から陸前高田の町を眺めると、1.5キロ先の海まで見える。新設された電信柱だけが並んでいる。



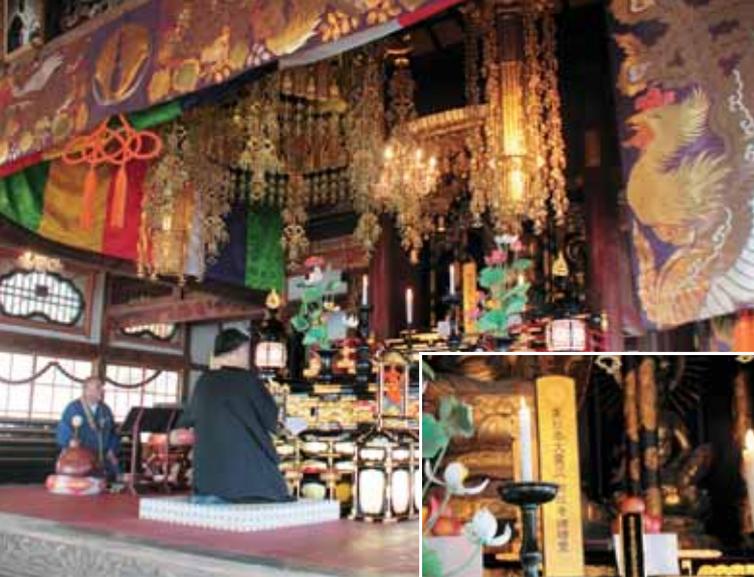
気仙沼の住宅地に残されている大型船。ガレキは撤去されたが、まだ荒野のような状態だ。

ている。一階部分が柱を除いてきれいに押し流されたままの大きな建物。傾いたままのビル。道路もまだ通行止めだらけ。それでもガレキの山は無くなったという。

続いて訪れたのは奇跡の一本松で有名になった陸前高田。こちらは、まだ一部ガレキの撤去作業中で、市役所やスーパーなどのいくつかの壊れたままの大きな建物を除くと建造物は全くない。

「津波が内陣の上まで押し寄せましたが、本堂は何とか持ちこたえました。観音堂が残ったのはまさに奇跡です。近所のお寺さんでは伽藍は流され住職も犠牲となっていました」

昨年十一月に開所された浄土宗災害復興



陸前高田の浄土寺で東日本大震災物故者への追善供養の為に読経する中島住職。上人もお経をあげてくださった。

▶ 浄土寺住職から被災の時の様子を伺う中島住職。観音堂は奇跡的に流されずに残ったという。



◀ 陸前高田市役所に設けられた祭壇で物故者供養の読経をあげる中島住職。千羽鶴や献花が供えられている。



▶ 津波に飲み込まれてしまった陸前高田市役所。上人が案内してくれた。



左/気仙沼港脇の復興屋台村、気仙沼横丁。名物のフカヒレや復興支援の品々を扱うお店や食堂などが集まっている。



右/陸前高田の浄土寺本堂脇に昨年11月に設置された浄土宗災害復興岩手事務所。トレーラーハウスを事務所としている。



◀ 陸前高田の住宅地の跡地、盛り土をする所もあれば野菜を育てている所もあった。

▼被災地の多くは地盤沈下していて、気仙沼も満潮時には街中の道路脇がこうして水であふれてしまう。



▲陸前高田では新しい盛り土とともにガレキ撤去作業も行われている。



岩手事務所が置かれた浄土寺だが、水などのライフラインはまだ通っていない。

住職は今も仮設住宅に住んでいる。浄土寺は小高い丘にあるが、そこからは七万本松で有名だった高田松原の海までがずっと見渡せる。

気仙沼と陸前高田の両方で伺った復興計画は、地盤沈下した土地に六く八メートルの盛り土をし、街並みを再生するという復興計画だった。確かに重機で土を盛っているところがあつた。ただ、陸前高田ではいまだにガレキの山を処理していて、同じ重機が一片で盛り土を、一片でガレキ処理をしている、という奇妙な光景が繰り返されている。

お寺はもともとこうした天災に遭いにくい場所に建立されるので、幸い浄土寺も本堂が残ったものの、八割近くの檀家さんが被災されている。檀家さんあつての寺にしてみれば、従来のお寺に戻る目処は、まだまだ立つどころではない。

「実際に現地に来てみると、思っていたより復興に時間がかかることがわかった。誰が悪いわけではないが、それこそ強力なリーダーが、引っ張っていかないと復興はなかなか進まない」

初めて被災地を訪問した中島住職の感想だが、目に見える復興、見えない復興があるだろうが、目の前に広がっていたのは、復興とはほど遠い景色だった。

ただ、冒頭の言葉のように、まず私たちが「忘れないこと」が復興を進める一助になることは間違いない。

前号の御殿場の林昌寺、住職に続く梅窓院に随身(お寺に住みながら勉強や修行をすること)された方シリーズで、今回は宮城県気仙沼の浄念寺、住職にご登場いただいた。

住職は昨年の梅窓院の施餓鬼会でご法話をいただいているので、ご記憶の方もいらっしゃるだろう。昭和11年生まれの住職が梅窓院にいらしゃったのが、昭和34年頃で、先々代の中島真孝住職の頃だった。

◆本日は梅窓院の隨身時代のことをお伺いしたく参りました。よろしくお願ひいたします。

住職(以下) はい、もう、大昔のことですね(笑)。

◆住職が梅窓院に入られるきっかけをお話ください。

大正大学3年生の時に梅窓院の隨身をしている君という友人が誘ってくれたんだ。観音堂につながる隨身部屋、3部屋がすでに満室だったけれど潜り込んでしまった(笑)。

◆当時は中島真孝住職ですか。

そう真孝先生ですね。定員外だから小遣いなし、という条件で君の部屋に転がり込んだ。

◆特別扱いですね。

そう、でも小遣いのために家庭教師のアルバイトをしていたら、それを見かねてか、2~3カ月したら、真孝住職が「アルバイトは勉強の妨げになる。勉強に専念しろ」と小遣いを貰えるようにしてくれた。家庭教師のバイト代の方が小遣いより高かったけど、嬉しかったね。

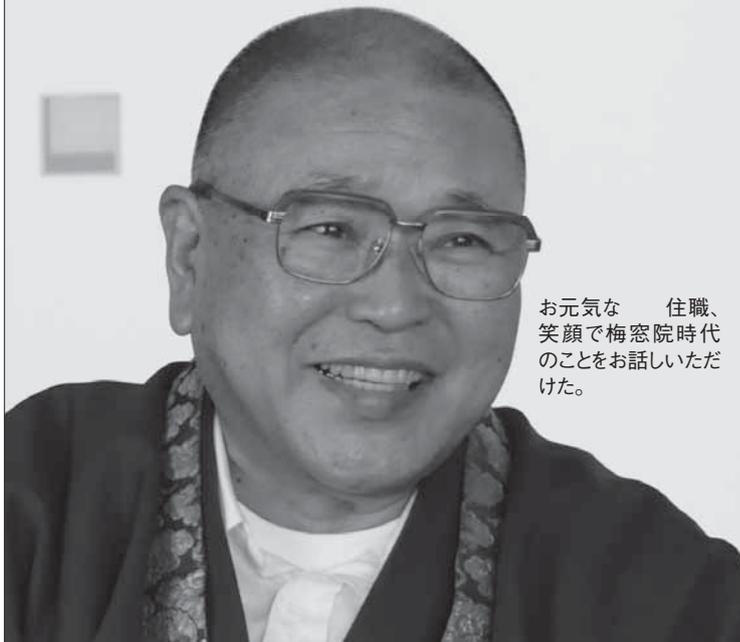
◆真孝住職の細やかな配慮ですね。

有り難かったですよ。4年になれば論文もありましたから。そして、卒業の目途が立ち就職活動を始めたら、今度は「お前大学院へ行け」と、学費から小遣いまですべて面倒みてもらうことになった。

◆住職は何学部在籍されていたのですか。

宗教学部です。そして、行かせていただいた大学院1年の時に真孝住職がハワイに赴任することになったのですが、今度は「お前、大学院卒業したらハワイに来い」と。

◆真孝住職が昭和36年にハワイ浄土宗教団の総長(現総監)に就かれた時のことですね。



お元気な住職、笑顔で梅窓院時代のことをお話しいただけた。

昭和11年宮城県気仙沼生まれ。気仙沼高校を卒業し、大正大学入学。昭和38年大正大学大学院卒業。宮城教区第五組浄念寺住職。浄土宗宗会議員などの要職を歴任されている。



平成23年秋に落慶式を予定していた浄念寺本堂前で住職と中島真成住職。落慶式は東日本大震災で延期されている。

ええ、それで真孝住職が不在の間、倉常寺の真哉住職が梅窓院に戻られたのですが、ハワイで困らないようにと、六本木の英会話学校に通わせていただき、車の免許も必要だからと赤坂にあった自動車教習所にも通わせてもらいました。

◆ハワイ行きの準備を着々とすすめられていたのですね。英会話に運転免許、至れり尽くせりですね。

はい、そして大学院2年目の確か10月かな、浄土宗からハワイ行きの辞令がおりました。

自分で言うのも何ですが、当時のハワイ赴任はエリートで、多くの学生が立候補していました。

◆昭和30年代半ばで海外、ハワイは憧れの的だったのでしょうか。でも、住職は真孝住職に目をかけられていたのですね。

そうですね。でも、辞令をもらってしばらくした時に実家から電話で、浄念寺の住職だった兄が交通事故で遷化した……と。

檀家がそれほど多くない寺でしたから、住職である兄は高校教師もしていました。その通勤途中でバイク事故だったそうです。

◆突然のことで、驚かれたでしょう。

ええ、まさか、ですね。で、甥っ子に後を継がせようにも、まだ小さい。そこで私に白羽の矢が立ったのです。

◆高校卒業後に東京で暮らしていた さんにですね。

何度も電話や手紙でやり取りした後に、総代長がわざわざ東京に来られて……。ハワイに行きたくて戻るのが断っていた私を口説くための最後の手段ですね。

◆浄念寺の総代長自らが気仙沼から青山へ足を運ばれた。

先ほど言ったようにハワイ赴任のためにどれだけ梅窓院さんにお世話になっていたか。それに、もともと寺は兄が継ぐ予定で、私は国立大学を受験していたぐらいですから……。

ですが、総代長さんに説得されて……。

◆気仙沼にお戻りになった。

はい。以来梅窓院さんには何えなくて、真孝住職がハワイから戻られた時でさえもお詫びに何えなくて……。昭和49年の真孝住職の葬儀によくお線香をあげに梅窓院に行きました。その時は真哉住職に叱咤されました。

◆結果的に裏切る形になってしまったことに心が痛まれたのですね。

それは何から何までお世話になったのに、何の恩返しもできなかったのですから……。でも最近はお施餓鬼のお手伝いなどで梅窓院へ伺えるようになりました。

昨年お施餓鬼で法話をさせていただきましたが、とても有り難かったです。

◆どうぞ、昔のことは昔のこと、これからは気軽に梅窓院に足をお運びください。ありがとうございました。



トラットリアフィレンツェサンタマリア
TRATTORIA Firenze
SANTAMARIA 南青山店

今回紹介するのは、このお店で食事したイタリア人が「家に帰ってきたみたいだ」と喜ぶイタリア料理店。店内は白壁と木材をベースに控えめな装飾で、リラックスできる雰囲気です。

料理はお肉と内臓料理がメイン。イタリアンに適した季節の有機野菜を長野県などから取り寄せています。パスタ料理にフォカッチャとスープがつく日替わりパスタは平日1100



営業時間/ランチ11:30~15:30(L.O14:30)
ディナー18:00~ 23:00(L.O22:00)
定休日/年中無休 予約/平日ランチ時のみ不可
席数/40席
住所/東京都港区南青山4-1-1
TEL/03-5772-8085
FAX/03-5772-8085



▲外観



▲内装

◀ 週替わりのおすすめ
パスタランチセット

円、さらに500円で前菜を追加するのがお客さんに人気。なお、土日の週末ランチは前菜がセットになり1700円。
パスタはやや細麺で味はしつかりめ、そしてボリュームがあるのが特徴的です。予約は土日のみ可能で、お席は最大40名まで。小粋なイタリア料理店、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○日向ほこ点滴受けし腕の皴

◎入選

- 八十路坂腰のぼしつづつ煤払ひ
- 水脈長く引く遊船や初明り
- 下宿屋に冬至南瓜をもらいけり
- またもぐる布団の中が恋しくて
- 降りさうで降らず日暮るる冬至かな
- 銀盤まで日差しの届く冬の朝
- 朝の陽の当る濡れ縁花八つ手
- 古希近し餅囃む数を増やしけり
- 散る紅葉時折雨に打たれつつ

◎選者詠

○しばらくは枯野の駅に停まりゐる

大崎 紀夫

ワンポイントアドバイス

俳句では「切れ」が大事だといわれ、切れ字がよく使われます。代表的な切れ字は「や」「かな」「けり」ですが、わたしはよく「かな」「けり」を使います。「廃校の校舎まるごと残暑かな」「湖に沿ふ鯖街道の植田かな」など初期の作です。そして「かな」はよく「詠嘆のかな」といわれますが、わたしの場合、詠嘆ではなく、音を整えるためにただ軽く付けた「かな」が多いです。そんな軽い「かな」を「浮きかな」といいます。

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠みください。4月6日を締切り、6月発送予定の『お盆号』にて発表いたします。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募ください。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承くださいませ。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

食は命

第五十回

食養研究家
武鈴子

春は肝を
サポートしよう

陽気が高まり温かい風が吹き始めると、冬籠りしていた虫が這い出します。草木の新芽がすくすく伸び始めるように、人体も陽気は上半身から、陰気は下半身から活発に新陳代謝を行い、新生細胞の生成に活動的になります。その働きを内側からコントロールするのが肝臓の役目。春は肝機能が高ぶる季節です。東洋医学でいう肝は、肝臓という臓器だけでなく、目、じん帯、神経、爪などをも包括し、解毒や血液の貯蔵にも関連しています。ですから春になっても肝が順調に働かないと、目がかすみ、体がだるく、気分がイライラして“頭に血が上る”というように怒りっぽくなります。これとは反対に、春になっても冬眠状態で発散ができないと、頭がぼーっとしてやる気が起きず、うつ症状を引き起こしてしまいます。

春の養生は、小鳥のように青空を羽ばたくことはできなくても、心身をのびのびと開放して散策や軽い運動などでリフレッシュさせることが大切です。

食べ物は補肝のもの。“肝には肝”で、レバー料理をはじめ、レンコン、ユリ根、春菊、セロリなど。アサリ、アワビ、シジミ、ドジョウ、ウナギ、ごま、はちみつなどが効果的。クコの実、ナツメ、ハスの実、ハッカ、菊花なども。また味には酸・苦・甘・辛・鹹の五味がありますが、春と肝に影響を及ぼすのは酸味。毎朝の一粒の梅干しが肝に活力をつけるのです。疲れたときのレモン、お酒の肴にもすく酢一口が肝を養う一品なのです。春先の解毒効果を持つ山野草も肝の強力なサポーターなのです。

行事予定

春彼岸会法要

3月20日(水)

寄席 午後1時～ 祖師堂
法要 午後2時～ 祖師堂

※詳細は3面をご覧ください。

はなまつり

4月5日(金)～8日(月)

寺院棟2階 本堂

お釈迦様の誕生をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝ください。



大施餓鬼会法要

5月18日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせいたします。

開山忌法要・能楽奉納

6月8日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせいたします。

第59回 念仏と法話の会

6月12日(水)

時間 12時半～(受付12時より開始)

法話:「小学校教育と仏教心」

講師 群馬教区 長寿院
蟹和 秀顕上人

大規模修繕のお知らせ

4月1日から5月末日まで大規模修繕を行います。

外部塗装をするので足場を組んで作業を行います。

ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

発行 行 / 梅窓院

発行日 / 平成25年3月1日

発行人 / 中島 真成

編集 / 青山文化村

住所 / 〒107-0062

東京都港区南青山2-26-38

電話 / 03-3404-8447

FAX / 03-3404-8436

ホームページ / <http://www.baisouin.or.jp/>

E-Mail / jodo@baisouin.or.jp

題字 / 中村康隆元浄土門主

総本山知恩院第八十六世門跡

平成25年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より平成25年度 前期 仏教講座を開講します。今年度も5名の講師でお送りいたします。どうぞお気軽にご参加ください。 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

全講座▶午後6時～8時(受付は午後5時から) 受講料▶無料 場所▶祖師堂(地下2階)

講題 / 続・お経を読む

講師 / 阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

- 第1回…4月22日(月)『阿弥陀経』①
- 第2回…5月21日(火)『阿弥陀経』②
- 第3回…9月12日(木)『阿弥陀経』③

講題 / 『知恩講私記』を読む

講師 / 新井 俊定 先生(天然寺住職)

- 第1回…4月18日(木)『知恩講私記』を読む —作者とその構成—
- 第2回…6月27日(木)『知恩講私記』を読む —法然上人の五徳とは—
- 第3回…8月 6日(火)『知恩講私記』を読む —法然上人諸伝記とのかかわり—

講題 / 大乘仏教を読む

講師 / 勝崎 裕彦 先生(大正大学学長、香蓮寺住職)

- 第1回…6月20日(木) 方便品第二の教え
- 第2回…7月25日(木) 譬喩品第三の教え
- 第3回…8月22日(木) 提婆達多品第十二の教え

講題 / 法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講師 / 林田 康順 先生(大正大学准教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

- 第1回…6月17日(月)『選択集』第6章 —不滅の教え—
- 第2回…7月 9日(火)『選択集』第7章① —救いの光明—
- 第3回…8月19日(月)『選択集』第7章② —十二光—

講題 / 地域社会と真宗 —生活に生きる信仰と儀礼—

講師 / 本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶、大谷大学、佛教大学講師)

- 第1回…5月24日(金) 講の形態と動態
- 第2回…7月 5日(金) 寺院の開帳法会
- 第3回…9月 6日(金) 葬礼と墓上植樹

新企画

お檀家さんに
伺いました



日本堂前で撮影された写真が
様を持ってきてくださいました。

「勉強になります」

様(平成24年十夜法要にて)

自分がボランティアに参加しておりお話する機会があるので法話を聞くことは勉強になります。ご僧侶方が笙箏築龍笛をどこで教わったか気になりました。ライブも良く料理も美味しかったです。

(増上寺の雅楽会で宮内庁の先生に教わったそうです。)

「梅窓院に48年間元旦に来ています」

様(平成25年修正会にて)

48年間毎年元旦にお参りに来ています。昔はお昼頃ぼつぼつと人がお参りに来ていた記憶がありますが、年々お参りに来る方が多くなっている感じがしますね。

「ありがたいことです」

様(平成25年修正会にて)

お正月に孫を含め家族で仏様の教えを体感させていただけるのはとてもありがたいことです。ご先祖様も喜んでおられると思います。またお雑煮のだしは野菜の旨みが出ていてとても美味しくいただきました。

インタビューにご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました!

※行事やお墓参りなどでお寺にお越しいただいた方にご感想やご意見を伺っておりますので、ご協力の程お願いいたします。